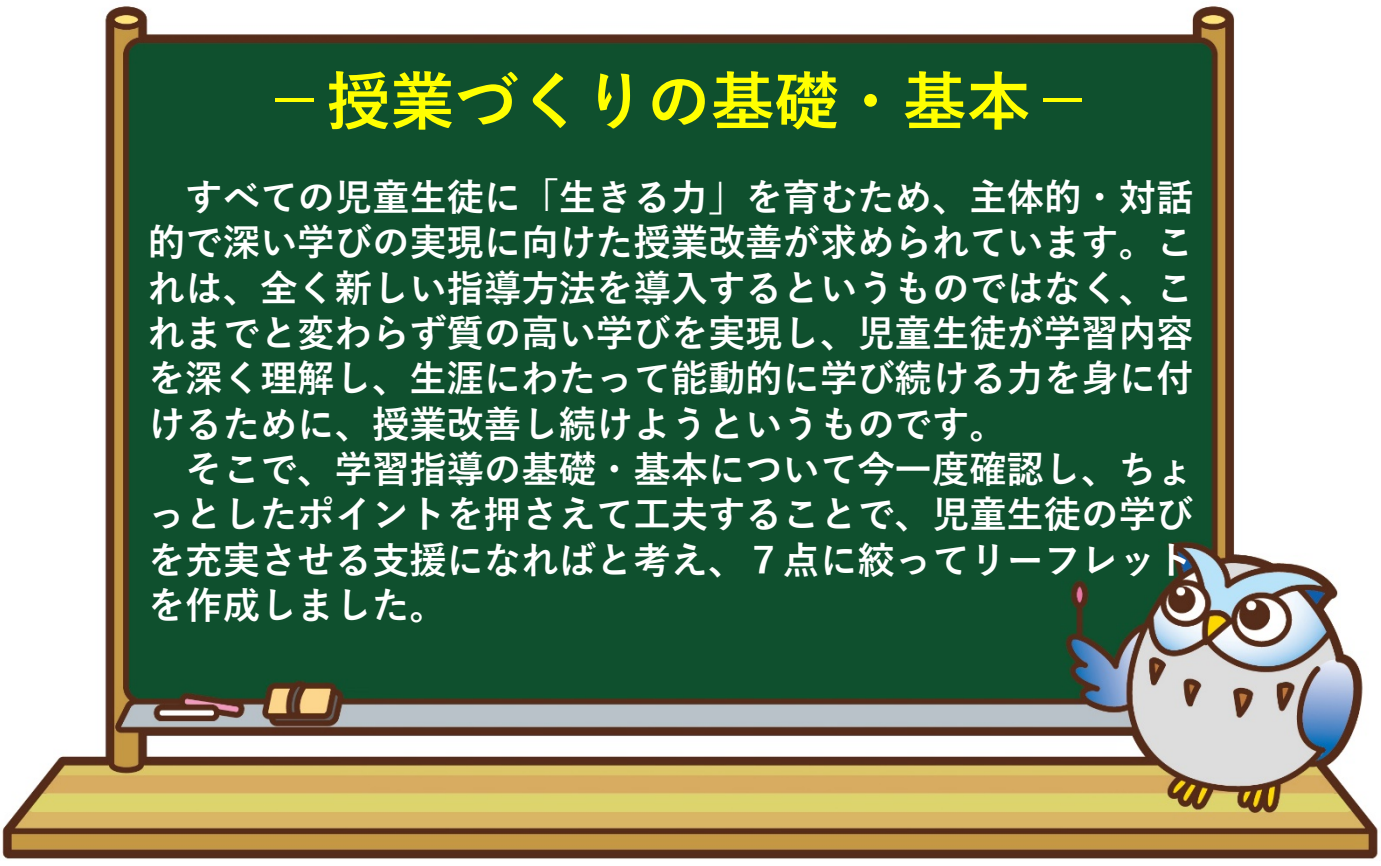
教えて！センタ君！

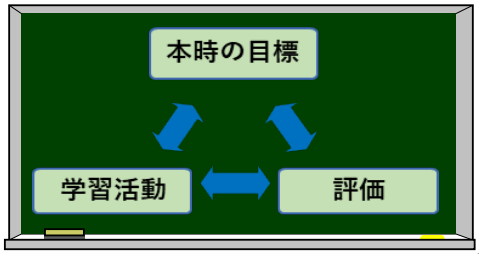


令和２年３月

京都府総合教育センター

授業づくりで大切なことは？

「本時の目標」と「学習活動」と「評価」の関連を図り、そのつながりが明確になるように１時間の授業を組み立てることです。



何ができるようになるか（育成する資質・能力）を明確にした「目標」を立てましょう。

過　程	学習活動	学習形態	指導上の留意点	評価（評価の観点）（評価方法）
導　入	○前時の学習を振り返り、本時の学習課題を確かめる。		既習事項を明らかにしましょう。 前時の「振り返り」も有効に活用しましょう。 **めあて・ねらい・課題**は本時の見通しをもつためのしかけです。 課題を解決するための手がかりをつかむことで、「やってみよう」、「こうしたらできるかな」という意欲が高まります。	
展　開	主体的・対話的で深い学びのために… 授業づくりの **point** を **check** 発問や指示 ２ページ 学習形態 ３ページ 机間指導 ４ページ 板　書 ５ページ ノート指導 ６ページ 教材・教具 ７ページ			
まとめ	○学習を振り返り、分かったことやできるようになったことをノートに書く。		本時の目標につながるまとめをしましょう。 自分が何を学び、どのような変容があったのかを実感できる工夫が大切です。	

＜学習評価＞
○児童生徒にとって⇒学習状況への気付きや達成感、意欲の喚起
○教師にとって　　⇒指導の振り返り、指導の質の向上

発問や指示はどうしたらいいの？

発問には、①知識･理解を確認する発問　と　②考えさせるための発問　があります。
例えば、

「三角形の合同条件ってどんなものがありましたか？」

これはどちらの発問？

①知識・理解を確認する発問です。
授業の【導入】などで、前時やこれまでの学習を振り返らせることが多いです。児童生徒の理解度を確認する際に効果的です。

なぜ考えさせるための発問が必要なのだろう？

授業の【展開】部分では、児童生徒が思考・判断・表現する時間を設け、自分の考えを深めさせることが大切になります。
その際、何をどのように考えるかを具体的に示すことがポイントです。
また、考えたことを、表現することが学習の定着につながります。様々な学習形態を工夫し、表現する機会をつくりましょう。⇒Ｐ３

理由や根拠を考える。

「主人公はどんな性格でしょうか。
また、どうしてそう考えたのか理由も考えましょう。」

比べて考える。

「ともだちの意見を聞いて、どう思いましたか。
自分の意見と比べてみましょう。」

発問したり、指示、説明したりするときのコツって？

発問や指示、説明の意図を明確にして内容を考え、実際に伝える言葉として具体的に考えておくようにしましょう。また、以下のことも意識しよう！

- ☐ それまでの学習活動をいったん止め、顔を話し手に向けさせる。
- ☐ 一呼吸置き、児童生徒が話し手に集中できていることを確かめてから話し始める。
- ☐ 発問を言い換えたり、違う発問を重ねたりしない。
- ☐ 説明の途中で児童生徒からの質問を受け付けたり、それに答えたりせず、最後まで説明し終わってから、質問を受けるようにする。
- ☐ 同じ方向ばかり見ずに、全体を見渡しながら、時に児童生徒と目を合せて話すようにする。

学習形態はどう活用するの？

学習形態は、授業のねらいを達成させるための工夫の一つです。
それぞれの形態の特徴や働きを知り、活動内容に適した学習形態を活用しましょう。

Q. 簡単な内容について短時間で意見をひきだすには？ → ペア学習

○比較的短い時間に交流や作業を行え、全員が意見を出すことができ、自己存在感を与えます。

▲ペアの一方だけの発言や活動に偏らないように、話し手と聞き手が適宜交代したり、均等に役割を分担したりすることなどを活動前に十分指導しておきましょう。

Q. 意見交流を活発にしたり、深めたりするには？ → グループ学習

○４人程度のグループを作り、司会やリーダー役などを決めて活動し、全員が発言や作業に携わるようにすることで、自己決定の場を与え、自己有用感を得られます。グループ活動の結果や成果等は、学級全体に向けて発表させるなどして共有するとよいでしょう。

▲発言力があるなどの一部の児童生徒の意見に偏らず、協力して学習を進められるよう声かけをしましょう。手順を明確にすることも大切です。

Q. 自分の考えをまとめさせるには？ → 個別学習

○自分の考えを深めたり、自分の活動を振り返ったりするため、１時間の授業の中に個別の形態を適切に取り入れましょう。

▲個人の学習状況を把握し、一人一人に関わることが必要です。机間指導を行い、適度に対話や交流場面を設けるようにしましょう。

Q. 全体で課題を共有するには？ → 一斉学習

○指導者が説明したり、課題を示したり、児童生徒と問答をしたりして、全員で同じ内容の学習を進めることに適しています。

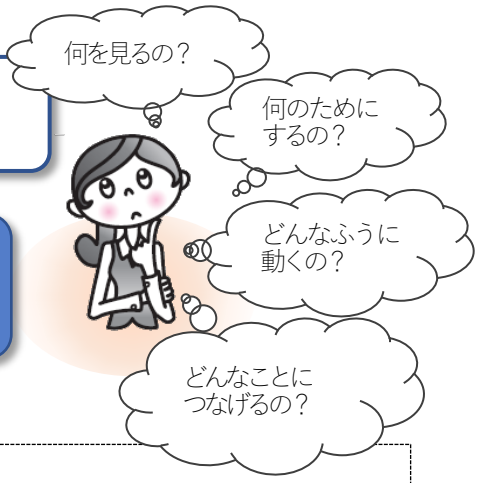
▲クラス全体の反応を確かめながら授業を進め、児童生徒が受け身にならないよう、説明の仕方、発問、教材・教具に工夫し、児童生徒主体の学習になるようにしましょう。

■学習形態を活用した授業の流れの例

一斉学習	個別学習	ペア学習	グループ学習	個別学習
課題の共有や確認	各自の考えやまとめ	意見の伝え合い	意見交流や比較	振り返りや深化

机間指導はどんなことをするの？

机間指導の目的や意味を確認しましょう。
教室全体や児童の様子に目を配りましょう。



見る
（つかむ）

クラス全体の学習状況をつかみます。
・指示や発問を理解して学習を進めているか。
・学習に集中しているか。（学びに向かう姿勢）

診る
（分析・判断する）

児童生徒の活動の様子から展開を調整します。
・時間はどれくらいかかりそうか。（活動の修正や変更）
・だれを指名したら効果的か。（順番、内容、論点などの整理）

観る
（注意をはらってみる）

一人一人の様子を観察・評価します。（指導と評価の一体化）
・活動が停滞したり、時間が余っていたりする様子はないか。
★どんなことに困っているのか。
★どんな頑張りが見られるか。

ノート等への丸つけや言葉による評価が児童生徒の励みとなります。

みる
（指導・支援をする）

支援の必要な児童生徒にアプローチします。
・必要な支援は何か。
（課題設定の調整、個別指導、学び合いの声掛けなど）

こんなことも効果的！

〇教師の動線

偏りなく児童生徒の状況をつかむために、教師の動線を意識しましょう。（順に、S 字型に）

〇座席表の活用

児童生徒の状況をメモし整理するのに便利です。記号で簡素化するなど工夫しましょう。

〇役割分担

TT 授業など複数で指導する場合は、指導エリアや担当児童生徒を決め、情報共有しながら指導しましょう。

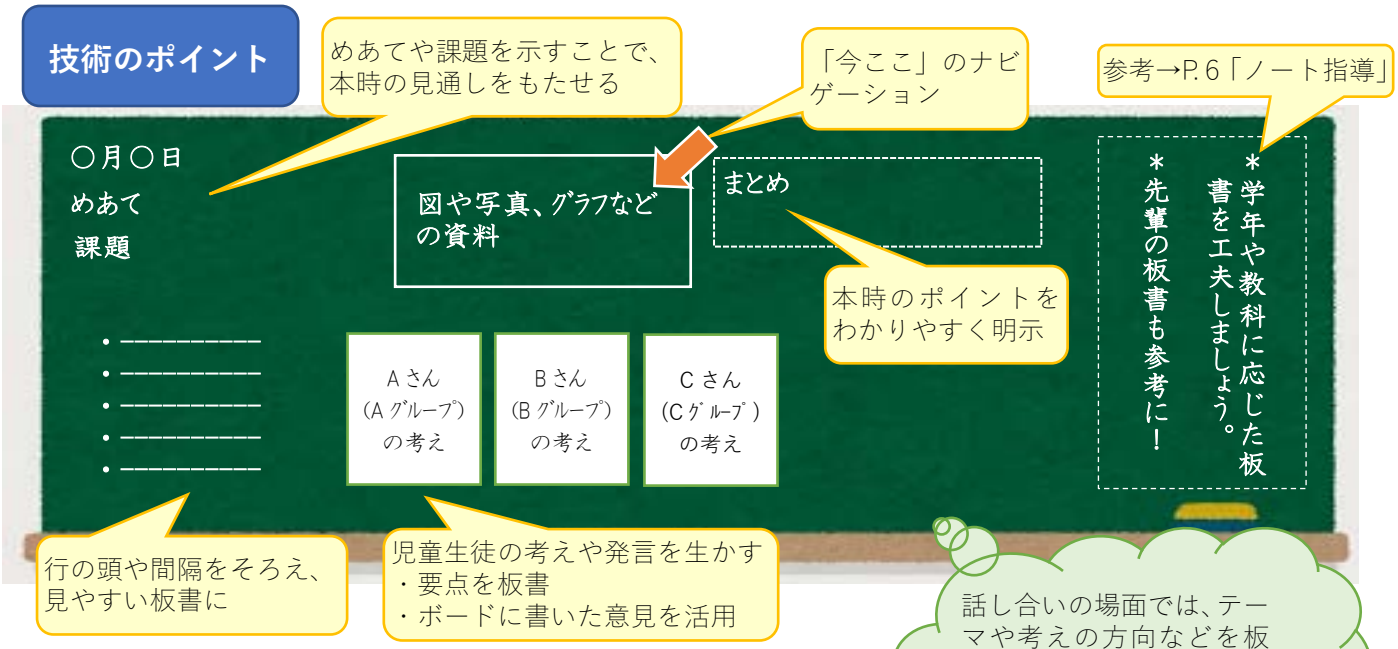
机間指導は、授業を支える大切な時間です！

板書するときのポイントは？

□板書計画を立てる。
□教室のどの席からも見える字の大きさで書く。
□濃く、しっかりとした線で、正しい字形・筆順で書く。
□既習の漢字は用いる。
□直線を引くときは定規を使ってかく。
□色チョークは効果的な使い方をする。（配慮が必要な場合があります。
　日本学校保健会「色覚に関する指導の資料」参照）
□ノートとの関連を意識する。板書を一つのノートと見立てられるように。
□黒板に向かっている時も背後の児童生徒に気を配り、学習の様子を把握する。

学校における色覚に関する資料 公益財団法人日本学校保健会ホームページはこちら

技術のポイント



☆板書を見ると本時の学習の流れが見え、学習を振り返ることができます。
　また、板書は児童生徒の思考を映し返し、さらに思考を深めるという役割を担います。

さらにひと工夫

板書内容を保存する

　写真等の記録を残すことで、その後の学習に連続性を持たせることができます。
→導入における、前時とのつながりづくりに
→教室に掲示し、単元をとおして学びを深める材料に

小黒板やホワイトボードを使って授業の流れを示す

　見通しをもつことで、学習に取り組みやすくなる児童生徒がいます。体育や部活動でも使えるひと工夫です。

キックベース⑤
1 めあての確認
2 グループ練習（10 分）
3 作戦会議（5分）
4 ゲーム（25 分）
5 ふりかえり（グループ）（5分）
6.ふりかえり（全体）（5分）

ノート指導のポイントは？

「書けるようになること」が目的に

「書くこと」で「考える」手段に

板書を写す

板書を丁寧に間違いなく書き写す指導から始まります。

そのため、そのまま書き写せるような板書にすることが必要です。

例えば…

・鉛筆の持ち方、下敷きや消しゴム、定規などの使い方

・手でノートを軽く押さえて書く

・文字はマス目をいっぱいに使って書く　など

「聞く・考える」時と「書く」時は分けましょう。

考えたことを書き入れる

板書に加えて、自分が理解したことや考えたことを整理して書き入れて、「ノートに書く」ことにつないでいきます。

例えば…

・ノートの初めに「日付」、授業の終わりに「振り返り」を加える

・記号や矢印などを使って整理する

・重要な内容が目立つようなレイアウトの工夫　など

授業の流れの中に、気づいたことなどを書く場面を設定しましょう。

自分なりの工夫

自分でノートの書き方を工夫し、学習内容や思考過程を整理するために効果的にノートを活用できるよう、各教科において具体的に指導します。

例えば…

・授業で解決したい疑問や課題を予習として整理

・復習として、写した板書をもとにして自分なりに授業内容をまとめ直す　など

生徒の主体的な学習につなげることを意識しましょう。

自分に合ったノートの書き方、活用を通して、自立した学習者に

こんなふうに困っている児童生徒はいませんか？

- ☐ ひらがな、カタカナで書けない文字がある。
- ☐ 読めるが書けない漢字が多い。
- ☐ 特殊音節（「しゃ」、「っ」、「のばす音」等）を間違う。
- ☐ 形の似た字をよく間違う。（「ぬ」と「め」、「わ」と「れ」など）
- ☐ 枠や線からはみ出すことが多い。
- ☐ 文字を思い出すために止まることがある。
- ☐ 文を書く時、漢字を使わずひらがなばかりで書く。
- ☐ 助詞の間違いが多い。
- ☐ 書くことを嫌がる。
- ☐ 書くことが遅い。

どうすればいいのかな

穴埋めプリント教材を使って文字を書く量を減らすことや、ＩＣＴ機器を使ってキーボードでの入力、板書の写真を撮り活用するなどの工夫（合理的配慮）を考えていきます。

ＩＣＴを活用した個に応じた指導法についての研究冊子はこちらから

教材・教具はどう活用したらいいの？

教材の基本は**教科書**です。授業のねらいにそって効果的に活用することが大切です。

例えばこんなふうに教科書を活用することができます。

◆ イメージを広げて理解しやすく

教科書の図や資料等を拡大して活用すると視覚化・共有化を図ることができます。興味関心を引き出したり、じっくり思考したりする場面をつくることで理解を助けます。

昔の道具：洗濯板

実物

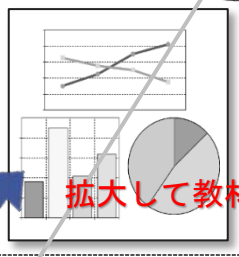
実際に体験して、昔のくらしの知恵や苦労を実感する。昔の道具は、郷土資料館で貸出ししてくれます。

京都府立山城郷土資料館、京都府立丹後郷土資料館
ホームページＵＲＬ
http://www.kyoto-be.ne.jp/yamasiro-m/cms/
http://www.kyoto-be.ne.jp/tango-m/cms/

板書に活用すると、話の構成や展開が整理できわかりやすい。

拡大図

教材として配ると、書き込んだり、まとめたりできる。



拡大して教材に

さらに理解を深めるために

一部を焦点化しワークシートにすると個人の学びを評価に活用できます。また、さらに補助資料や習熟プリント、フラッシュカード等を必要に応じて作成すると効果的です。

study
スタディー

◆ 伝えにくいものをわかりやすく

動きや細かいものの説明などには、写真や動画を活用しましょう。ICT 機器を活用し、子どものノート（作品）や試技等をリアルタイムに提示することで学びが深まります。

動画や写真

試技を視聴して成果や課題を見付ける。

（ミシンの運針）

音 ♪

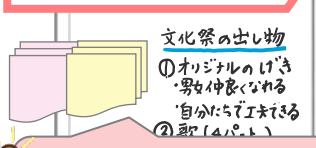
①What　sports do you like?
②Do you like tennis? …

録音した会話文から、場面やセンテンスを理解する。

◆ 言語活動を豊かに

授業に作業や操作があると、思考が深まり言語活動が活発になります。活動の手順や時間を見通すには、シミュレーションを行うことが大切です。活動しやすい教具の準備と、必要なきまりや指示についても考えておきましょう。

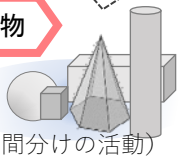
ホワイトボードや付箋



事前に考えて

時間はどれくらいかかるかな…。辺や頂点の数を調べる表が必要かな…。

具体物



（仲間分けの活動）

視覚化・共有化で協働的な学びが生まれる。

※ねらいを明確にし、児童生徒の実態を踏まえた教材・教具の準備をしましょう。
※安全面への配慮や管理を徹底し、教材・教具の共有化を図り有効な活用を！